

町長室から

台風15号、19号の被害死者数が1カ月を超過した現段階で90名を超え、現在も避難所での生活を余儀なくされておられる方々が2600名以上と報道されており、政府は台風被害では初めての激甚災害に指定しましたが、1日も早い復興を願わざるを得ません。

それにしても、近年の異常気象は想像を絶するものがありますが、更に世界の温暖化が進行すると信じられない事態になるかも知れないと危惧するところです。

先進国のみならず法的義務を課されていた1997年の京都議定書の後継として、2015年に途上国も含めて世界の188カ国で地球温暖化対策として温室効果ガス削減の取り組みを行う歴史的なパリ協定が締結されました。いよいよ母なる地球が守られると喜んでいましたが、アメリカのトランプ大統領が急に協定から離脱すると宣言しました。本意は知る由もありませんが、報道ではトランプ大統領の自国第1主義からするとアメリカ産業界の利益が阻害されること、前任のオバマ大統領が決めたことに反対することが、理由だと

されています。温室効果ガスの大排出国であるアメリカが抜けると、せっかく合意した協定からさらに離脱する国が出てくる可能性があり、協定が形骸化される心配も出てきました。選挙のためには地球環境まで顧みない政策をとるのは断じて許されるものではなく、残念でなりません。

北海道町村会政策懇談会の農林水産部会で「農林漁村地域における5G（第5世代移动通信システム）の早期整備について」を国に要望することになりました。

高度情報通信網については都市部と農山漁村部の格差が依然として大きく「スマート農業」や「インバウンド」を中心とした観光客の増加、また、「企業誘致」や「サテライトオフィス」「テレワーク事業」などを進めるうえでも農山漁村部全域への高速インターネット環境の整備が必要不可欠になってきています。2020年からの実用化が見込まれる5Gについては、政府はIT戦略において全国にある信号機（20万8千基）を5G（第5世代移动通信システム）の基地局向けに開放する新プロジェクト

を閣議決定しました。既存施設を利用して早期に低コストで5Gネットワーク整備を加速化させることが狙いであり、交通渋滞緩和や自動運転支援などの都市部の環境整備には有効と言えますが、5Gの電波は波長が短く、電波の飛び距離が数百メートルから1km程度と現行の4Gより短いため、信号機が少なく、また信号機の間隔が広い農山漁村での有効性には、はなはだ疑問が残るため、ますます都市部と農山漁村部との5Gの環境整備に差がつくことが懸念されます。

また、今年の4月に5Gの全国サービスを提供する事業者4社に2年以内に全都道府県でサービスを開始すること、広範な全国展開を求める条件を付したうえで、「5G導入のための特定基地局の開設計画」が認定されましたが、各社が提出した計画では計画期間の5年間のうちに条件不利地域など、全国各地を面的にくまなく基地局を整備する内容になっていない状況だと聞いています。

インターネットが当たり前になった現在、高速・大容量に加え、

多接続・低遅延も実現され、幅広いニーズに対応できる5Gは全国津々浦々まで地域の差別なく同時並行的に早期に進められる必要があります。事業者は安価で早期に整備が可能となる基地局の開発に創意工夫を凝らすとともに、政府は地方創生を実現するためにも情報過疎地域が生じないように5G展開について積極的な支援策を講じる必要があること、地方自治体が農山漁村地域で整備した情報通信基盤設備の維持管理にかかる経常経費及び更新費用に対しても財政措置をすること、また携帯電話の不感地区解消のため、通信施設の設置及び維持管理について必要な財政支援を講じる事などを国に要望することにしたものです。

雪の便りが聞かれるようになりました。車の運転にはますます慎重さが必要ですので、自らの命を守り他人を傷つけないなどこれまでに以上に交通安全に気を配ってくださいますようお願いいたします。

浦幌町長 水澤一廣

COLUMN

連載 104

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部

教授 平岡祥孝

いよいよ本格的な冬の季節が到来しました。とかく「・・・冬の時代」と言えば、経営環境厳しき状況の喩えとなつていきます。少子化の時代にあつては、大学経営も決して例外ではありません。けれども、如何に難局に直面しても、知恵を絞って、汗をかいてこそ、一筋の光明が見えるものではないでしょうか。試練が人間を鍛錬してくれるのは。奇の年波には勝つてずとも、ここは気持ちを強く持つて、寒い冬を乗り切りたいと思つ次第です。

さて、今年を振り返つて最も印象に残ることは、高校生と勉強したことです。「高大連携」が、最近の教育におけるキーワードになつていきます。私の場合には、高等学校から直接私宛に依頼が来て、その高校に出張講義を担当すべく出向いていきます。ご指名とならば、地域を問わず、どの高校にでも参るようになっていきます。要は「出前迅速」。驚いたことには、来年度6月実施予定の高校から、早々に依頼が来ています。

講義内容は色々です。最近では、キャリア教育、進路講話、基礎学力、

日本語表現などの分野でお声がかかることが圧倒的に多いです。今年も延べ約50校。けれども、私の専門分野である経済学分野の依頼は数校でした。高校生対象が最も多いですが、高校教員や保護者を対象とした講演もお引き受けしています。私自身は高校現場での経験が皆無ゆえ、高校教育に興味・関心を持っています。「何でも見てやろう」の野次馬根性があるかも。

高校生と勉強した際に、最も充実感を覚える瞬間があります。それは、高校生とフェイス・トゥ・フェイスで、小論文や志望理由書を添削指導しているときに、「そういう風に書けばいいんだ。わかった」「そう書く、わかりやすいのか」といった類の表情を浮かべる瞬間です。高校生が気付いた瞬間ですね。一瞬明るくなります。笑みがこぼれます。雲の隙間から太陽の光が射す場面に似ているかもしれせん。私はうれしく思います。

また、「こういうふうに修正したらどうですか」「このように書き換える」と、意味が通りますが、これでいいですか」などと、私が高校生に問いかけたとき、「ちよつと違うんです」「言いたいこととはずれてしまします」といった類の返事を返す高校生は、自分を持つています。ここで「可愛くないね」と思ってしまう、教員失格。教員の権威で押さえつけることは最悪

の教育。口では多様性を認めながらも、ついつい自分の型に嵌めてしまうのも教員の悪い癖。主体性があつて頼もしい限りです。受動的な学びに埋没していない証左。

摺り合わせのために対話を重ねることになります。生徒からは、何を言いたいのかを引き出しながら、あるいは思いを引き出しながら、「こういうことですか」「これではどうですか」と、私も問いかけます。「そうです」と返事が返ってきた一瞬は、私も「やった」と心の中で叫んでいます。たとえ拙い表現であっても彼や彼女の言いたいことに耳を傾ける姿勢を取ることが、肝要です。さすれば、「やりがい」という無形の報酬が得られます。

私学教員の黄昏を迎えて、年齢が大きく離れた高校生と勉強できる機会を得たことは、教員として丁寧な指導の必要性を再認識することが出来ました。「仕事の出来ない経験者」にならないためにも、自らの仕事に関して謙虚な振り返りが必要でしょうね。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

浦幌町応援大使2019年シーズン成績

9月27日(金)現在



中島卓也選手

打率：.220 試合数：120 打席：328 打数：291 安打：64 単打：58
二塁打：5 三塁打：1 本塁打：0 得点：39 打点：16 四死球：24
犠打：12 犠飛：1 盗塁：12 出塁率：.278

西村天裕選手

防御率：3.83 試合数：35 勝数：1 敗数：0 勝率：1.000
ホールド：3 セーブ：0 投球回：44 2/3 自責点：19 失点：22
奪三振：55 与四死球：23 打者：196 被安打：40 被本塁打：6